

住宅用火災警報器に係る奏功事例

□ 天草広域連合消防本部管内での奏功事例を紹介します

<事例1>

台所のガスコンロでお湯を沸かすため火をつけたまま外出し、やかんが空焚きになり発生した煙を感知した住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）が作動し、近所の方が警報音に気づき台所に行きコンロの火を消し換気を行った。

<事例2>

台所のカセットコンロに鍋をかけたまま仏壇にお参りしていたところ、住警器が発報したため台所に戻ろうとしたが、煙が充満していたため119番通報した。警報音に気付いた近くの住民が駆けつけ、カセットコンロの火を消した。

<事例3>

台所で夕食を作るため鍋に材料を入れガステーブルに火をつけ調理中、電話があり話をしていた時、住警器が発報した。火を点けていたことに気づきガステーブルの火を消し換気を行った。



<事例4>

昼食を作るためガスコンロに火を点けその場を離れた。しばらくして住警器が発報し、居間でテレビを見ていた家族が警報音に気づき、台所から煙が出ていたため確認に行きガスコンロの火を消し換気した。

<事例5>

風呂を沸かし、焚口を閉め忘れて外出した。焚口から火が広がり住警器が発報し、警報音に気付いた隣人が水道水で消火した。

□ 全国各地での奏功事例の一部を紹介します

<事例1>

自宅2階で就寝中、台所で出火し、住警器が発報した。警報音に気づき目が覚め、水道水で消火することができた。

<事例2>

ガスコンロに鍋をかけたことを忘れ就寝した。鍋が空焚きになり、発生した煙により発報した住警器の警報音に、隣人が気づき通報した。その後、就寝中であった家主も警報音に気づきコンロの火を消した。

<事例3>

自宅2階で就寝中、階段に設置していた住警器が発報した。警報音に気づき住宅内を確認すると、居間の壁が燃えていたため水道水で消火した。

<事例4>

自宅1階で就寝中、住警器が発報し、警報音に気づき目が覚めた。住宅名を確認すると、別の部屋で就寝している家族の布団が燃えており、水道水で消火した。

当本部管内及び全国各地の奏功事例の一部です。他にも多くの奏功事例があります。各奏功事例をみても、住人や隣人により住警器の作動による警報音に気づき早期に対応できたため大事に至らなかったようです。

住警器を設置したから大丈夫と思わず、日頃から「火の用心」を心がけてください。

まずは1家に1個以上の住宅用火災警報器の設置を！！

火災を早期に発見するため、住宅用火災警報器を設置しましょう

※住警器を設置したことにより、火災件数が減る訳ではありません

